

2026年度研究助成課題が決定しました

2026年度は個別研究助成74件・育成研究助成38件、合計112課題の応募があり、理事会での審議の結果、以下の個別10課題、育成3課題の採択が決定いたしましたのでお知らせします（応募順、申請時の所属）。

個別研究助成（1年間）

氏 名	所属	課 題	助成金額 (万円)
五十嵐 公一 共同研究者：岩城 悠佑	北海道大学水産科学院 博士1年	アマモの病気が草食無脊椎動物に与える影響： 見過ごされてきた栄養供給源	70
小柴 隆広 共同研究者：後藤 龍太郎	近畿大学農学部環境管理学科 学部4年	ナマコ内部共生性二枚貝コノワズキン属の種多様 性と宿主認識機構の解明	70
溝口 元気	東京大学教養学部前期課程理科一類 1年生	リアルタイム環境データから予測するクマムシの生態 解明：生息地環境要因と動態変化の統合データ解析	70
長谷川 稜太	オタゴ大学動物学科 日本学術振興会海外特別研究員	寄生虫の寿命と繁殖をフィールドで推定する	61.4
宮本 洋臣 共同研究者：黒田 純平、後藤 太一郎	東京海洋大学 准教授	伊豆大島周辺に分布するイソヤムシの種多様性の把 握	70
米澤 遼 共同研究者：浅川 修一	日本大学生物資源科学部 / 東京大学大学 院農学生命科学研究科 特別研究員 (PD) / 特任助教 (非常勤)	環境中に放出されるエクソソームから視る二枚貝の 産卵行動	70
西 源一郎	筑波大学生命環境学群生物学類 学部4年	日本で飼育系統が確立されていない平板動物の採集 と飼育条件の検討	70
三藤 清香	奈良女子大学 STEAM・融合教育開発機構 特任助教	嚢舌類ウミウシにおける餌種の違いによる大規模再 生能の変化	70
香月 智裕 共同研究者：安藤 奏音、平山 一樹、 今野 友陽、根来 晃佑	北海道大学院環境科学院 修士1年	環境 DNA を用いた地下水性ヨコエビの遺伝的多様 性の解明	70
剣持 瑛行	静岡理科大学 博士研究員	サクラエビ幼生期における摂餌生態の解明 —分子生物学的手法による食性解析	70

育成研究助成（2年間）

氏 名	所属・学年	課 題	助成金額 1年目 / 2年目 (万円)
下岡 敏士	名古屋大学理学研究科 博士前期課程2年	ノラリウロコムシ科多毛類の交尾器獲得に伴う形態進化と前適応	100 / 100
伊藤 颯真	京都大学大学院理学研究科 博士後期課程1年	日本列島沿岸におけるサクラガイ属貝類の種多様性、生態的特性、 および集団遺伝構造の解明	100 / 100
南條 完知	東北大学大学院生命科学研究科 博士前期課程2年	エボシクラゲ科における生物発光タンパク質の解明	100 / 100

編集後記

今号の表紙はアラリウミウシ *Verconia norba* のお食事の
写真です。ウミウシ類の摂餌シーンをとらえることは難しい
ので（食べているのかな？と思っても通過しているだけだっ
たり…）、珍しい画像になります。撮影者の今本さんによると、
灰色の海綿を黙々と食べている様子だったとのこと。外套膜
が縮んでいるようですが、伸びた状態だと4cm程の大きさの
個体かもしれないとのことでした。今回は生態が分かる写真
を表紙に選んでみました。

先日、生き物と食文化を取材するため、有明海に出かけま
した。訪れるのは2回目ですが、独特の風景や生き物、食材
があり、いつもわくわくします。干潟を歩き慣れていない初
心者なので、いざ調査を始めようと一歩踏み出ただけで泥
にはまり、思うように動けず苦労する場面もありました。現
地では、食材として利用される有明海の無脊椎動物について、
さまざまなお話を伺うこともできました。また、あらめてご
紹介できればと思っています。